



4期目の議席をいただき、今期から議会運営委員長となりました。前期2年間、議長として学ばせていただいたことを活かし、より実効性ある議会をつくって参ります。

今期は、「前例踏襲から脱却し、議会としての機能を高める」ことを自身のモットーとし議会運営にあたる所存です。市民の声をしっかりと反映する議会にして参ります。

第2回定例会（令和7年6月）

《会派代表質問》

人口減少対策／農林業振興などについて質問しました。

第3回定例会（令和7年9月）

《一般質問》

こどもの貧困対策／公共施設および防犯灯のLED化などについて

第4回定例会（令和7年12月）

《一般質問》

豊後竹田駅周辺

整備計画について

現在、市が進めている「豊後竹田駅周辺整備事業」について質問しました。当初、この事業は、バスやタクシーの導線を整理し、駅前ロータリーの安全性を高めることを目的としたものだと言明を受けていました。

実際、竹楽の期間中はシャトルバスの発着点となり、多くの人で混雑することから、駅前広場を拡張する必要性については私も認識しています。

しかし、計画が進む中で、交流スペースやロータリー通路への屋根の設置などが加わり、総事業費は約10億円となっています。5億円は国の補助金、残り5億円は、新たに借り入れる起債です。

私は、安全のための拡幅には賛成ですが、人口減少が進む中で、過剰な投資を心配しています。

■ 本日に駅前広場に「交流スペース」が必要ですか？

計画では、駅前広場に「賑わい創出」を目的とした交流スペースや植栽、大きな屋根を設置するとされています。しかし、周辺にはすでに「城下町交流プラザ」や古町のイベントスペースがあります。

さらに、これらの施設は整備後も維持管理費がかかり、将来的には補助金に頼らず、市の負担として継続していくことになります。



駅周辺の工事イメージパース

■ 「バリアフリー」ではない駅構内

今回、私が最も強く訴えたのは、市が行うべきことの優先順位です。

駅前広場には1億円超の屋根付き通路を整備する一方で、駅構内（改札内）にはエレベーターやスロープ（段差のないゆるやかな坂道）がなく、車椅子の方は線路上の通路を遠回りしなければホームに行けない状況です。

市は「駅の中はJRの管轄で、市の事業範囲外」と答弁しましたが、まずは高齢者や障がいのある方が安全に利用できる環境、すなわち駅構内のバリアフリー化やオストメイト対応トイレの整備こそが優先事項だと考えます。

また、大きなスーツケースを持つ旅行者の利便性向上のためにも、JRと設置に向けた協議を進めるべきです。

■ 豊後竹田駅の持続性を含めた議論を

これまで、建設課から議会に対して数回にわたり事業説明があり、9月までは「駅を賑わいと安らぎの場にするための設備整備」と説明を受けていました。

ところが、今回の一般質問では、市長が「市街地の臭い対策のため」と言及しました。

さらに、「駅周辺整備によってJRの乗降客が大きく増える見込みはなく、駅前広場に人を集めるよりも、城下町や市内の観光地へ人をつなぐ方が経済効果が見込める」との市の答弁もありました。事業の目的や効果に一貫性が見えず、私は大きな困惑を覚えています。

JR九州が赤字路線の3つに挙げた「豊後竹田」宮地駅一間の存続についても、真剣に考えなければなりません。駅構内の利便性や、JRとバスとの時刻調整なども含めた施策として、統括的な議論が必要です。

駅前広場の工事は令和10年を予定しています。今後、事業の進め方や計画内容をしっかりと注視していきたいと思います。

佐藤 美樹

〒878-0026 竹田市大字飛田川 2112

TEL 090-1165-4745 E-mail satomiki38@gmail.com

竹田市 佐藤みき

検索